

お知らせ

愛媛大学医学部皮膚科では、様々な皮膚疾患の病態解明と新たな治療開発を目的として、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会の承認を得て、「皮膚疾患の発症・増悪に関与する物質（蛋白）の免疫組織学的解析」を行っています。この研究に、これまでに同意を得て採取し保存している患者さんの皮膚組織を利用させていただくことがあります（遺伝子の検査は行いません）。学会や医学雑誌に結果が発表される場合、個人を特定できる情報が公表されることはありません。また、この研究で得られた結果を個別に御連絡することはありません。この研究の内容を詳しく知りたい方や、保存している皮膚組織を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

皮膚疾患の発症・増悪に関与する物質（蛋白）の免疫組織学的解析

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院皮膚科

【研究責任者】 白石 研（皮膚科 准教授）

【研究の目的】

アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、掌蹠膿疱症など多くの炎症性皮膚疾患や皮膚悪性腫瘍の発症、増悪のメカニズムは未だ十分に解明されたとは言えません。これらのメカニズムを解明することは今後の新たな治療開発につながることを期待されます。これらの疾患の発症・増悪に関与する物質の同定と相互作用を明らかにするためには、生体内での特別な条件下である患者さんの皮疹部で作用する種々の蛋白発現の解析が必要不可欠です。本研究は、過去に当科で生検、切除した各皮膚疾患の病理標本を用いて様々な物質の蛋白発現を免疫染色で検討し、増殖、分化、遊走、炎症、免疫反応、細胞内シグナル、アポトーシスなどを詳しく解析し、疾患の病態解明と新たな治療開発を目的としています。本研究は皆様の今後の診療にも役立つことができると考えています。

【研究の方法】

2000 年以降、2033 年 2 月 28 日までに愛媛大学医学部附属病院を受診された患者さんで、診断・治療のために皮疹部より生検・切除した病理標本を使用します。対象となる組織は皮膚疾患、皮膚腫瘍全般です。生検・手術で切除した標本（凍結保存・パラフィンプロック）をスライドガラスに切り出し、各疾患に関与する物質の抗体を用いて免疫染色を行います。発現を解析する物質は、炎症、免疫、増殖、分化、遊走、細胞内シグナル、アポトーシスなどに関わる蛋白全般であり以下のようなものである。

1. 炎症、免疫に関与する各種サイトカイン・ケモカイン・増殖因子など
2. 炎症、免疫に関与する細胞内シグナル
3. 細胞の増殖、分化、遊走に関わる因子
4. 皮膚腫瘍の特性・発症に関わる因子
5. 創傷治癒に関与する因子
6. 細胞死に関与する因子

【個人情報の取り扱い】

収集・保存した試料（皮膚組織）は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>

愛媛大学医学部附属病院 皮膚科 白石 研

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院皮膚科 白石 研
791-0295 愛媛県東温市志津川
Tel: 089-096-5350